

分類	主な意見の概要	事業者の見解
陸域生態系 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の減少や鍾乳洞の観光拠点化などによりカンムリワシ、コウモリ類の使用環境は減少しつつありこれを踏まえて予測・評価をする必要がある。 ・空港建設により、カンムリワシの絶滅の速度を速める効果があると思うのだが。 ・予定地の予測の中には石垣島全体のカンムリワシの個体群に与える影響の記述がない。 ・カンムリワシを上位種として取り上げるなら、予測の中で、石垣島全体のカンムリワシ個体群に与える影響を記述すべき。 	<p>環境省の「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物(2002)」によると、カンムリワシの個体数とその動向は、記録数や生息が記録された範囲は拡大傾向にある(ただし、調査方法が異なるために単純には比較できない)とされております。また、日本野鳥の会八重山支部(1998年)によると、準備書p6-12-20に示すように、石垣島においてはバンナ岳、屋良部岳、崎枝、川平、於茂登岳南方に集中的に生息する傾向がみられ、事業実施区域周辺の生息密度は低いことが示されています。</p> <p>カタフタ山周辺域に生息する個体群については、工事の実施中、存在・供用時においても繁殖ペアが継続的に生息・繁殖することを環境保全目標とし、適切な環境保全措置を講ずることから、本事業の実施により石垣島の個体群が絶滅するような重大な影響は生じないものと考えています。</p> <p>コウモリ類については石垣島全域における生息実態調査により、少なくとも現在、石垣島全体ではヤエヤマコキクガシラコウモリは6400個体、カグラコウモリ8900個体、リュウキュウユビナガコウモリ1500個体が生息していることが把握されており、予測及び評価に活用しております。A洞窟及びD洞窟を含めた事業実施区域周辺の個体群が存続することを環境保全目標とし、適切な環境保全措置を講じてまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書の図面にスケール表示がないので、距離表示の確認ができない。 	<p>一部の図においてスケールバーが示されておらず、評価書の段階で修正します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・カンムリワシについては、行動圏、採餌環境、営巣行動、攻撃・威嚇などの種間関係、農作業・交通などの人間活動との関係など、詳細な調査解析を行っており評価すべき点が多い。 	<p>p6-12-74に示すカンムリワシとオサハシブトガラス、リュウキュウツミの巣との距離関係についての情報を基に、カンムリワシの営巣環境を分析し、他の2種との巣間距離が要因として作用しているものと考え、内部構造図における営巣中心域の確定に活用しました。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・空港が建設されると、道路拡張・商業諸施設・レクリエーション施設・住宅等の建設が行われ、カンムリワシの生活圏は大幅に減少するのではないかと。 ・カンムリワシの餌場は、山地帯だけでなく、山地から続く丘陵地や水田、さらには干潟をも利用するものであり、保全策の構築にあたっては、山地だけでなく平地部の十分な保全が必要であるが、このような検討はなされていない。 	<p>将来、想定される土地利用については、現在のところ、現況と同程度と想定しております。将来においても現況が可能な限り維持されるよう関係機関に要請いたします。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・新空港の建設中や建設後に鳥類相が単調になりオサハシブトガラスが増える可能性がありカンムリワシの繁殖地を圧迫することが予想される。これらの影響について、予測評価する必要がある。 	<p>供用時における鳥類相は、現況のゴルフ場やカラ岳周辺の草地と環境が類似していることからほぼ同等と考えられ、オサハシブトガラスの生息数も現状とほぼ同等と考えられます。ただし、供用後の周辺の土地利用が不確定要素であることから、オサハシブトガラスの個体数の増加や、それによる影響の予測は困難であると考えています。</p> <p>しかしながら、カンムリワシの事後調査の際にオサハシブトガラスやツミ等との間に何らかの干渉が見られた場合は記録に努め情報の収集を行ってまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書でカンムリワシを読もうとすると5ヶ所を飛び回り読みづらい、一つのカンムリワシの章の中で記述した方がよい。 	<p>構成上の問題であり、予測は生態系の基盤環境、個々の注目種、生態系の機能と構造について、「工事中」、「存在及び供用時」の2時期について実施しましたが、評価の段階ではこれらを総合的に評価したものであり、このような順番で記載しています。</p>